

ZOIDS

1/72 SCALE FULL ACTION PLASTIC MODEL KIT  
HIGHEND MASTER MODEL

HMM  
HIGHEND MASTER MODEL

061

# GAYSACK

RZ-002  
ガイサック



HEAD



WEAPONS



BODY



CLAWS



LEGS



GRAFTSMANSHIP  
**KOTOBUKIYA**

© TOMY ZOIDS is a trademark of TOMY Company,Ltd. and used under license.

# 歴史「RZ-002 ガイサック」



ヘリック共和国 RZ-002  
HIGHEND MASTER MODEL GUYSACK

※機体の一にCG加工を施してありす。

## ○西方大陸戦争

遼河の彼方にある惑星Z1、そこでは優れた戦闘能力を誇る金属生命体「ソイド」が戦いの主力として君臨していた。惑星中央に広がる大陸デルボイを本拠地とする「ヘリック共和国」と、惑星北西部に位置する通称黒大陸と呼ばれるニクスに君臨する「ガイロス帝国」は、ソイドを使い長きに渡って戦争行為を繰り返していた。惑星歴ZAC2099年、初期の大戦が惑星規模の災害「大異変」で中断されて42年あまり、両国は惑星南西にある「西方大陸エウロベ」にて再び激突、ここに「西方大陸戦争」が勃発する。主力ソイドとそれに関連するテクノロジー、野生体の生息域やソイドの生産に必要な資源が眠る地域、そして多くの人命が天変地異による地殻変動で海底に消えた両国ではあったが、大異変直後から来るべき次の大戦に向けて準備を進めていた。だが停戦期にひたすら準備

増強に力を入れていた帝国と違い、共和国は復興を第一とし、新型ソイドの開発までは手が回らない状態だった。その間に旧大戦で使用して今なお稼働可能な機種をいくつか選定し、近代化改修を行った上で直ちに再生産に入った。可能な機種をいくつか選定し、近代化改修を行った上で直ちに再生産に入った。可能な機種をいくつか選定し、近代化改修を行った上で直ちに再生産に入った。可能な機種をいくつか選定し、近代化改修を行った上で直ちに再生産に入った。

## ○共和国小型ソイド改良計画

惑星歴ZAC2029年にロールアウトしたガイサックは、戦闘機械獣であるソイド同士の戦いが本格化する時期に誕生した。共和国小型ソイドを第1世代とするならば、いわば第2世代と呼ぶべきカテゴリーに属する最初のソイドの1機でもある。この時期、戦争相手であるガイロス帝国の新型ソイドが次々に戦場に現れ、旧式化していた従来の共和国ソイドでは太刀打ちできなくなりつつあった。そこで共和国軍は、主力となる高機動特化の大型ソイドを中心に、併せて主力小型ソイドと奇襲用の万能型ソイドを開発する計画を開始した。それがアロスサルス型の「ゴドス」、サイロ型のカサリ型のガイサックであった。それがアロスサルス型の「ゴドス」、サイロ型のカサリ型のガイサックであった。それがアロスサルス型の「ゴドス」、サイロ型のカサリ型のガイサックであった。

に合せた策を弄した。同じくガイサックも、ベースとなるグランチュラ型の武装パターンに酷似した形態で初期パッケージとし、機種転換の前段階として順次グランチュラと置き換える事でとちあえずの戦力強化策とした。ゴドスはガリウスに無理矢理ゴドス用のフォーマットを適用させた爆りで出力不足に陥り、データ収集以上の目的は果たせなかったが、ガイサックは基本フォーマットをグランチュラとするものの、コアは新型のカサリ型野生体を用いており、専用のサブジェネレーターユニットの完成も早かったために、ゴドスと共通の強化パーツの運用も問題無く進行していた。グランチュラ乗りにも好評だったために、このテスト段階の機体を「グランチュラ改良型」としてそのまま愛機とする者も少なからず現れ、それとは別に後に言うノーマル形態でのガイサックをひとまずの完成とし、ゴドスに先行して順次配備を開始した。計画開始時の型番がゴドス「1」、ガイサック「2」にも関わらず、ロールアウトはガイサックの方が早くなったのはこの為である。

## ○激化するソイド戦

過去、中央大陸を二分して争われたゼネバス帝国との大戦「中央大陸戦争」では、それまでのどかとさえ言われる接近遭遇からの散発的な撃ち合いにのみ終止していた旧式のソイド同士の戦いは、本格的に対ソイド戦を意識して開発されたものに言う第2世代に位置づけられる新型ソイドの登場により次第に激化していった。ガイサックは同時開発されたゴドスと共に小型ソイドの主戦力として活躍し、両国のソイド乗りから傑作機と呼ばれるまでの評価を得ていた。しかしこの時期の新型ソイド開発ベースは戦いが激化していくのに合わせて加速度的に上昇しており、ガイサックがロールアウトした約20年後の惑星歴ZAC2041年では、更新るカテゴリーに分類される小型ソイドの登場により、ガイサックを始めとした第2世代のソイドは、そのほとんどが早々に第一線を退く結果となっていた。それでも相当数を量産された機種は後方支援用に現地改修を繰り返し、中央大陸戦争の終戦まで活躍し続けた。共和国がゼネバス帝国との戦いに勝利し、ゼネバス帝国を吸収して宣戦布告してきたガイロス帝国との戦い、惑星歴ZAC2051年に始まった「大陸間戦争」では、小型ソイドと呼ばれるカテゴリー

そのものが消滅する程のインフレが到来しており、両国の新型ソイド開発競争は極限にまで達していた。だがそれも、突如として訪れた惑星のものを揺るがす大災害により、ソイドに関するテクノロジーは一気に過去へ引き戻されてしまったのだ。こうして西方大陸戦争開戦時のZAC2099年には、初期の大戦に使用された旧式のソイドが再び脚光を浴びる事となったのである。

## ○砂漠戦のエキスパート

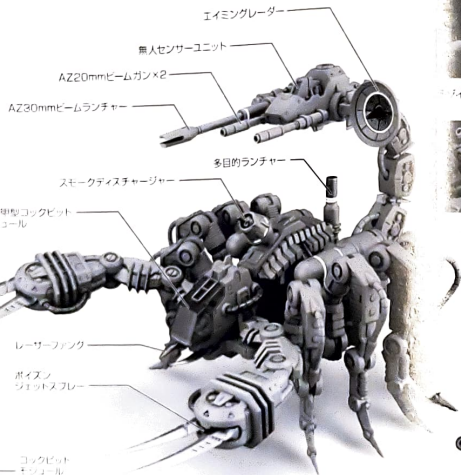
ガイサックの西方大陸戦争仕様は、ゴドスと共通の強化パーツを装着した状態をデフォルトとした。中央大陸よりも太陽光が強く、砂漠地帯の多い西方大陸を主戦場とする為、関節や駆動部等に砂が入り込まないように防塵機能を強化し、同時に各部冷却能力も強化された。更には本体色をサンドイエローで塗装、新たにRZ-002と、共和国の主力となる大型ソイドの「ゴジュラス」の次のナンバリングを与えられる栄誉を授かった。大異変以後の政治的判断で圧倒的に劣勢な共和国軍が取った策は、ゲリラ戦法で敵の進撃を遅らせるといふ苦しい決断だった。初期の戦闘ではガイロス帝国軍も新型ソイドの運用に必要な不可欠な鉱物資源が採掘される地域と、それに関わる人材ごと地殻変動により海底に没したため、旧大戦時のゼネバス帝国製ソイドを近代化改修した西方大陸戦争仕様のソイドを主力としていた。これにより設計思想の古いガイサックでも帝国小型ソイドには十分に対抗できたのだ。砂漠では身を隠せる遮蔽物が少なく、重量の重い大型ソイドは機動性が著しく低下する。その点ガイサックは日本の足による重量分散で砂漠での走破性は抜群で、更には自在に地中に潜る能力を有していた。この能力を活かして敵の進行ルートに待ち伏せし、奇襲戦法により敵部隊や輸送ルートにダメージを与える事を得意としていたのだ。中には砂漠の地中で72時間にも及び待ち伏せを行い、見事に哨戒中の大型ソイドを撃破したとされる猛者も現れ、その有用性とシンプルな構造ゆえの耐久力の高さから、特殊工作ソイドとして再び大量生産されたのだ。西方大陸戦争までの生産数は主力ソイドではないにも関わらず5000機を超えており、これは共和国ソイドの中では主力歩兵ソイドであるゴドスに次ぐ生産数となっている。



## 各部の名称



ゾイドコア(ゾイド生命体)



コックピットモジュール



ソイド30mmビームライフル

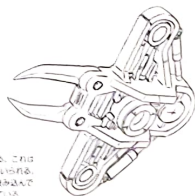
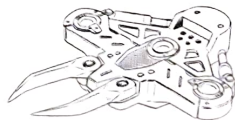
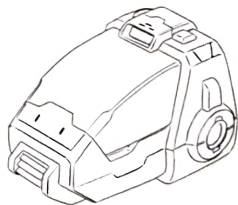


小口径ビーム砲×2

## DATA

全長: 10.0m  
全高: 4.0m  
重量: 22t  
最高速度: 120km/h

## 機体解説-1

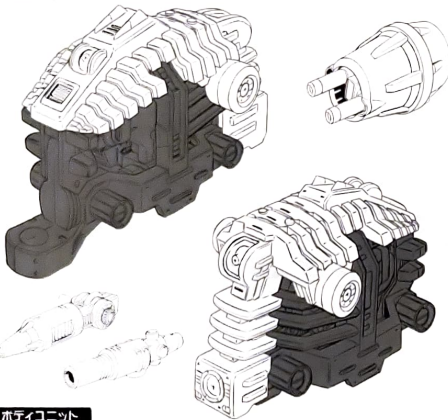


## コックピットモジュール

初期のコックピットは日本経済の高度化に伴ってゾイド全機体に対応した共通モジュールを使用していた。後に多用途用として用意された重装甲型は、設計変更とすべての材料に特殊鋼が用いられ、機体構造と通信システムのアップグレードが行われた。良好な性能を示したため、西カ大陸戦争仕様ではこの重装甲型コックピットがデフォルトとなっている。

## レーザーファング

重装モジュールの下に格闘戦用の身。レーザーファングを装備する。これは左右のレーザークローにより捉えた敵に対する攻撃手段として用いられる。クローが折れる、切り裂く用途に使用されるのに対し、この部位は折れ込んで攻撃する時に特化しており、レーザークローよりも威力が高くなっている。

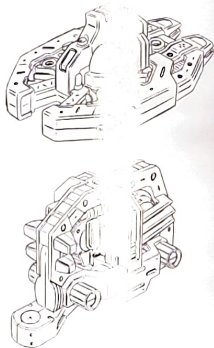


スモークディスチャージャー

コックピットモジュールにはスモークディスチャージャーを装備する。グランチュラが装備していたファイヤー射出装置の代わりに煙発生装置を装備したもので、他にバックフレア弾筒、作戦に応じて射出される攻撃弾を選択できる。

ボディユニット

基本フレームや機体はグランチュラのそれを応用しているが、ガイサクでは単発行動による部隊戦や長期戦を考慮し、本体上部にウェポンプラットフォームを兼ねたサブフレームユニットを搭載している。これにより前進での余裕やオプションとして選択する追加兵装の搭載に余裕を持って対応する事が可能となった。ウェポンプラットフォームには左右と後部合計3基のハードポイントを持ち、作戦に合わせて最適な兵装へと換装可能である。通常方にはバズカミオンビーム、後部にはグレネードランチャーや照準照準の弾種選択可能な直射ランチャーを装備する。



⚠️ 組み立て前にお読みください。(下記のパーツは説明用の一例です。本製品のものではありません。)

注意

- 本製品の対象年齢は15歳以上です。対象年齢未満の方には、絶対に与えないでください。
- 鋭利な部分や鋭利な突起がありますので、誤りにご注意ください。小さなお子様には絶対に与えないでください。
- 製品上やむを得ず鋭利な突起の部品がありますので、誤って口や皮膚を刺さないようご注意ください。
- 部品同士が離れ、出た部品が人を傷つけないようご注意ください。
- 資料や包装紙の取り扱いの際は必ず袋を開いてください。
- 製品の加工の際、熱や油がこぼれ、火傷や油汚れの原因となりますのでご注意ください。
- この製品の修理や分解は、本製品を傷つけないようご注意ください。製品の修理や分解は、本製品の保証の対象外となります。
- 本製品は不燃素材を使用していますが、火災の原因となる場合があります。ご注意ください。

必ずお読みください。

- 組み立てる前に必ずパーツリストで各パーツの名称を確認してください。
- パーツは必ず「パーツリスト」の順序通りに取り付けてください。
- 組み立てる際は、カートリッジや、プラスチック製の部品は必ず向きを確認してください。
- 組み立てる際は、必ず袋を開いてください。
- 鋭利な部分や鋭利な突起がありますので、誤りにご注意ください。
- 製品の加工の際、熱や油がこぼれ、火傷や油汚れの原因となりますのでご注意ください。
- この製品の修理や分解は、本製品を傷つけないようご注意ください。製品の修理や分解は、本製品の保証の対象外となります。

【パーツの損傷について】

本製品の組み立てはハメ込み式ですが、販売時のプラスチックモデル用接着剤を使用して組み立てることで、よりしっかりと仕上がりをお楽しみ頂けます。

※ABS製パーツが入っている場合、ABS用接着剤もご使用ください。

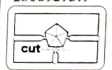
パーツ番号について

パーツ番号は数字とアルファベットの組み合わせで、構成されています。  
(AOの場合)



パーツの切り取り方

①パーツから少し離れた部分を切り取ります。



②ニッパーで残ったゲートの部分をきれいに切り取ってください。

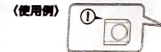


✗ゲートが残っていると、きれいに組み立てることが出来ません。



二重線の吹き出しについて

二重線の吹き出しは、「横から見た図」や「組み立てた図」などの補足図になります。形状をよく確認して組み立ててください。



○のついたパーツの切り取り方

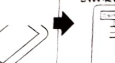
パーツの下側にゲートが付いています。



①パーツから少し離れた部分を切り取ります。



②ニッパーで残ったゲートの部分をきれいに切り取ってください。



はめ込む矢印のグレー部分

はめ込む矢印のグレー部分は、組み立てるパーツが他のパーツの下にくる場合や、軸や接続穴が隠れている場合に使用しています。



図号の説明

- ← はめ込む
- ① 内の番号で組み立てる
- ! パーツの向きに注意
- 🌐 破損に注意
- ✂️ 切り取る
- ↔️ 選択式
- 🌀 パーツの下にあるゲートを切り取る
- 👁️ 切り取る位置に注意

## RZ-002 ガイサック/パーツリスト

※グレー部分のパーツは使用しません。

パーツA・2  
(PS)



パーツB  
(PS)



パーツC  
(PS)



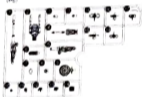
パーツD  
(PS)



パーツE  
(PS)



パーツG  
(PS)



パーツH  
(PS)



パーツI・2  
(PS)



パーツJ  
(PS)



パーツF  
(PS)



パーツK・2  
(PS)



パーツL  
(PS)



パーツM・2  
(PS)



※Mの余りは予備パーツです。

パーツP  
(PS)



ソイドコア  
(PVC 黒29A用)



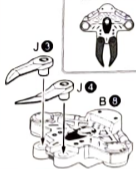
ソール



本書のイラストは開発中のデータを使用しています。やむをえず細部の形状が実際の製品と異なっている場合があります。  
3mm軸受汎用的な取り付け箇所については一例です。カスタマイズの参考にご利用ください。

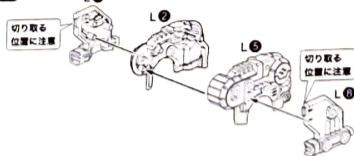
### 首の組み立て

(組み立て図)

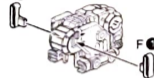


### 胴体上部の組み立て

1



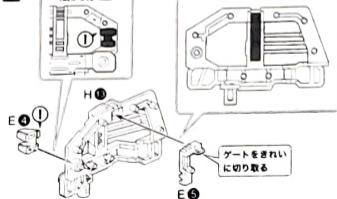
F2



F1

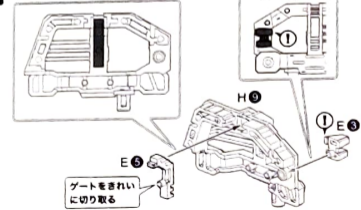
2

(裏から見た図)

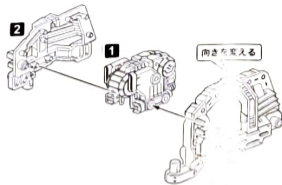
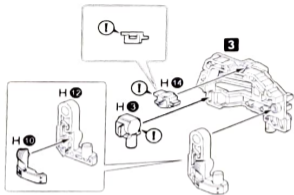


3

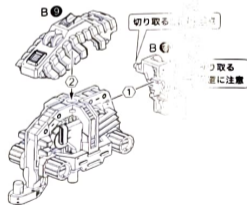
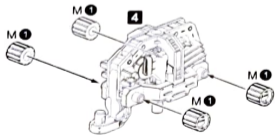
(裏から見た図)



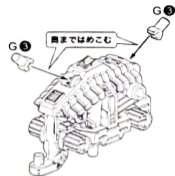
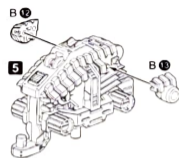
4



5



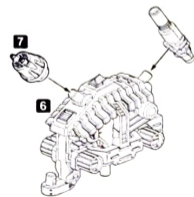
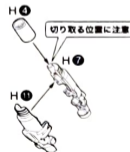
6



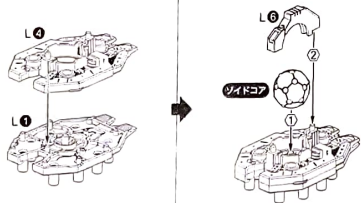
7



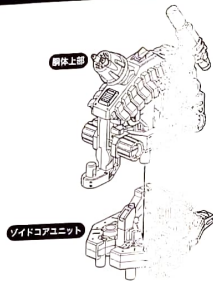
8



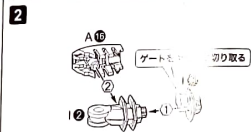
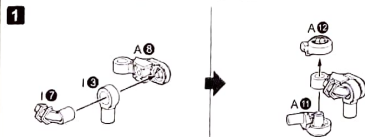
ソイドコアユニットの組み立て



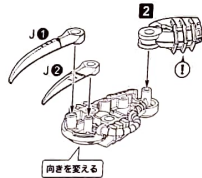
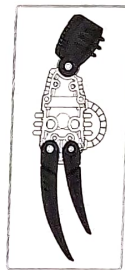
胴体の組み立て



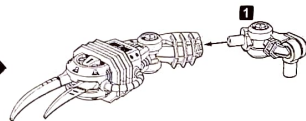
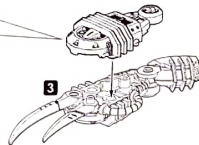
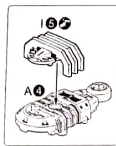
×2 腕部の組み立て



3

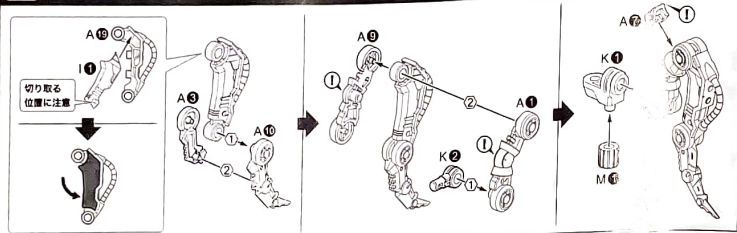


4

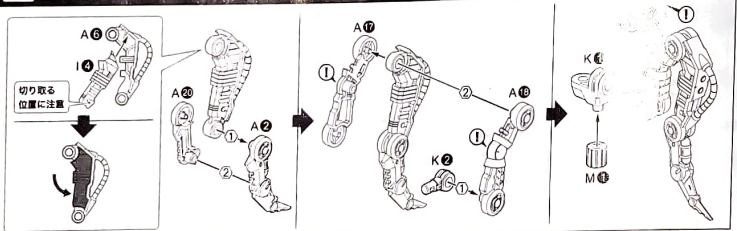




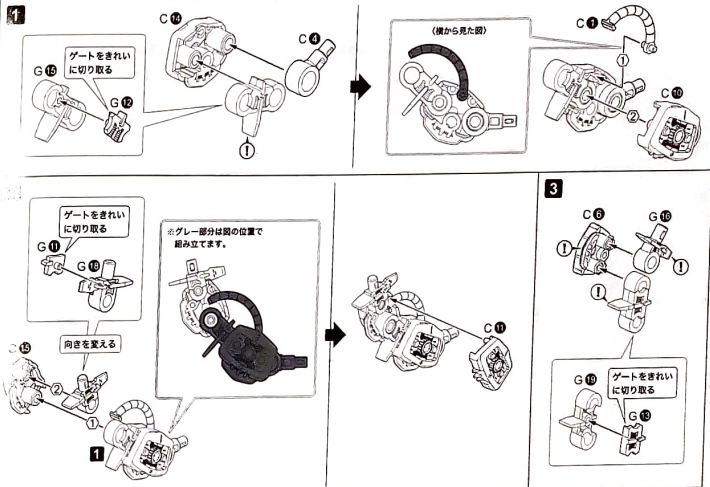
**X2 前脚の組み立て**



**X6 後脚の組み立て**



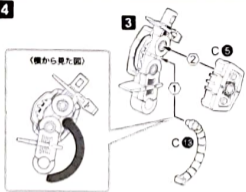
**尾部の組み立て**



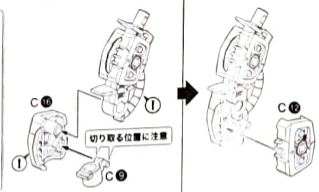


4

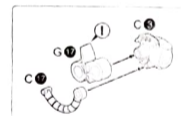
《横から見た図》



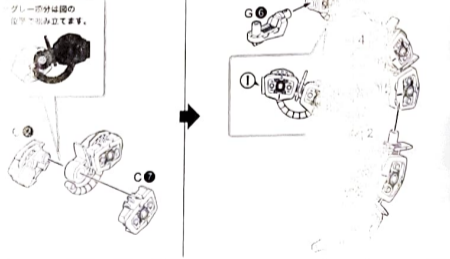
※グレー部分は図の位置で組み立てます。



5



※グレー部分は図の位置で組み立てます。



### コックピット(重装甲タイプ)の組み立て

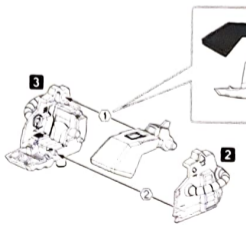
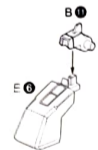
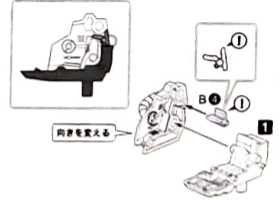
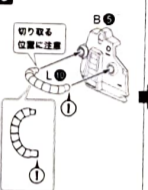
1



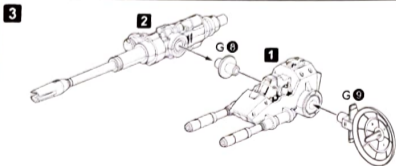
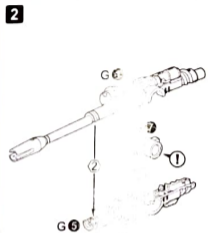
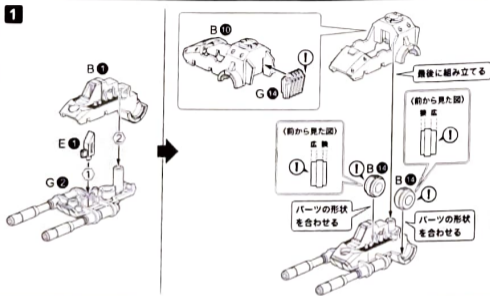
2



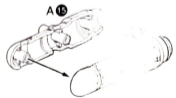
3



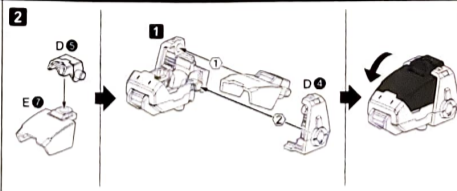
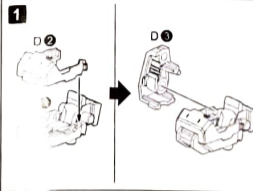
武装ユニットの組み立て



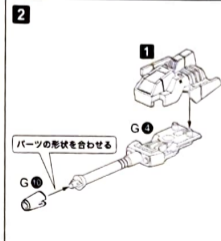
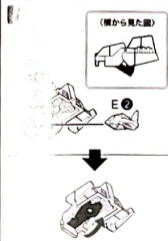
X2 エネルギータンクの組み立て



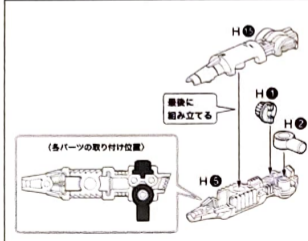
コックピット(ノーマルタイプ)の組み立て



X2 30mmビームライフルの組み立て

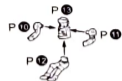


X2 小口径ビーム砲の組み立て





### パイロットの組み立て



### パイロットの搭載方法

※パイロットは、コックピット(重装甲タイプ)に搭載可能。  
コックピット(ノーマルタイプ)には搭載不可。

#### (重装甲タイプ)



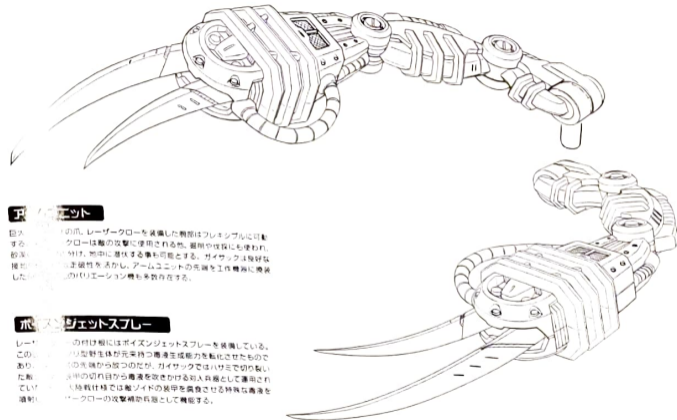
#### (ノーマルタイプ)



### ニューフライングベース(別売)の取り付け



### 機体解説-3



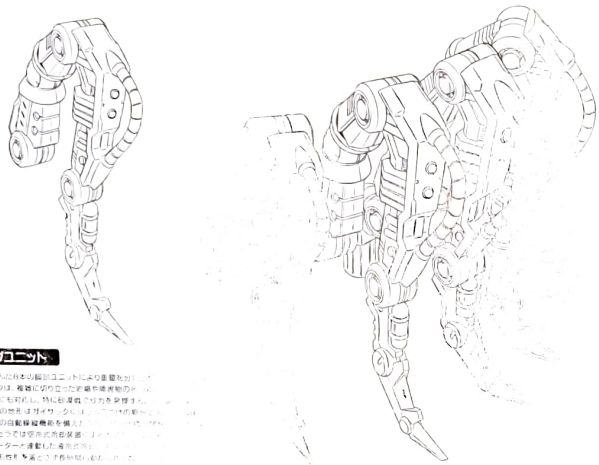
#### アームユニット

巨大なアームの爪、レーザークローを装備した腕部はフレキシブルに可動する。レーザークローは敵の攻撃に使用される他、防御や偵察にも使われ、敵深部まで届く。また、空中に潜伏する事も可能とする。ガイザックは鋭利な爪で敵の装甲を突き破り、正確性を活かし、アームユニットの先端を工作機軸に換装した際に、このパリエーション機も多数存在する。

#### ボイズンジェットスプレー

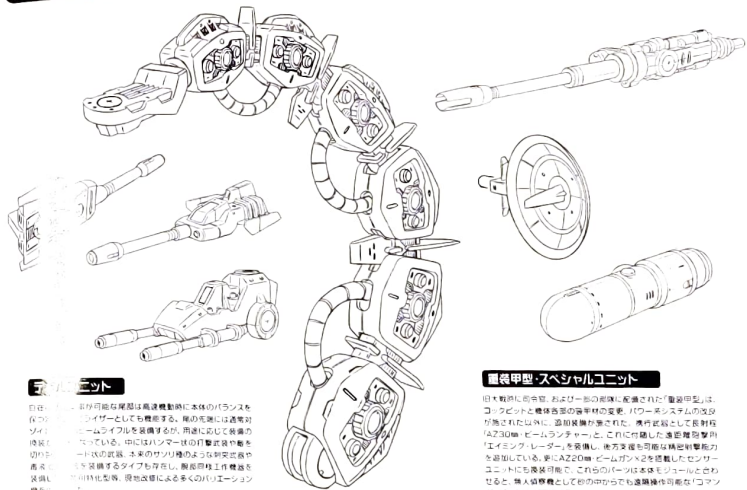
レーザークローの付け根にはボイズンジェットスプレーを装備している。このスプレーは、対空型主体が元来持つ毒液生成能力を転化させたものであり、レーザークローの先端から放つのだが、ガイザックではハサミで切り裂いた敵の装甲の切れ目から毒液を吹きかける対人兵器として運用されている。対人戦仕様では艦ゾイドの装甲を調査させる特殊な毒液を噴射し、レーザークローの攻撃補助兵器として機能する。





## レッグユニット

弾性に富んだ日本の鋼鉄ユニットにより重量を分散し、クイックは、着陸に切り立った地形や滑走路の凹凸、凹凸な地形にも対応し、特に砂漠戦で力を発揮する。また、前方大踏の地形はガイソックには対応し、戦況に応じて、自動操縦機能も備え、また、ユニットは、アサルトユニットでは空歩式所部装置、また、ユニットは、アサルトユニットで駆動した歩行式所部装置、また、ユニットは、アサルトユニットでも地形を滑と対応可能に設計された。



## 重装甲型・スペシャルユニット

自在に動作可能な尾部は高速機動時に本体のバランスを保つ。また、ライザーとしても機能する。尾の先端には通常対空用のミームライフルを装備するが、用途に応じて装備の換装が可能となっている。中にはハンマー型の打撃武器や斬り切り式の武器、本来のサンリ種のような対空武器や高速度を装備するタイプも存在し、履部同様に機器を装備し、用途特化型等、現地改修による多くのバリエーション機が存在する。

## 重装甲型・スペシャルユニット

旧大戦時に司令官、および一部の部隊に配備された「重装甲型」は、コックピットと機体各部の装甲材の変更、パワーシステムの改良が施された以外に、追加装備が施された。機体武器として長射程「AZ30mm・ビームランチャー」と、これに付属した遠距離射撃用「エイミング・レーダー」を装備し、後方支援も可能な精密射撃能力を追加している。更にAZ20mm・ビームガン×2を搭載したセンサーユニットにも換装可能で、これらのパーツは本体モジュールと合わせると、無人偵察機として目的の中からも遠隔操作可能な「コマンド・ビークル」が完成する。

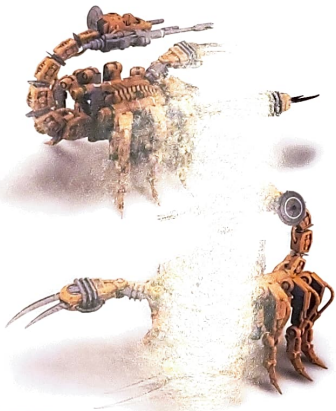
## カラーガイド

- MR. カラーシリーズ(株式会社 GSI クレオス)
- 1 | MRカラー | /H-1 | 本専売ビニカラー | ホワイト
- SM201 | MRカラー スーパーX9リッド2 | スーパーファインシルバー2
- GX101 | MRクリアカラー-GX | GXクリアブラック

- ガイアカラーシリーズ(ガイアノーツ株式会社)
- 001 | 超クリアー | ビュアホワイト

※こちらの塗料は全国の模型店及びホビーショップ等で扱われています。  
※塗料の配合比は参考値になります。ご了承ください。

色名	色番号	配合比
本体 ブラウン	51/H-44	80%
●黒色	58/H-24	25%
●シアンレッド	79/H-23	5%
●フロック	2/H-2	3%
●ホワイト	1/H-1	1%
本体 ホワイト	1/H-1	100%
●ホワイト	1/H-1	100%
本体 グレー1	13/H-53	85%
●ニュートラルブルー	72/H-56	8%
●ホワイト	1/H-1	5%
●フロック	2/H-2	4%
●イエロー	4/H-1	1%
●黒色	58/H-24	1%
●ホワイト	1/H-1	1%
●ニュートラルブルー	13/H-53	92%
●フロック	2/H-2	15%
●マスカニー	42/H-64	3%
●ベース	1/H-1	1%
●スーパーホワイト	1/H-1	1%
●コート	1/H-1	1%
●クリアー	1/H-1	1%



## 水転写デカールの貼り方

●ハサミまたはデザインナイフ、ピンセット、鑷等々を使用してください。●デカールを貼る部分の水分をあらかじめ中性洗剤などで拭き取るとしっかりと貼ることができます。●図で使われているデカールは取柄のための一例ですので、本商品に入っていない場合があります。●デカールの位置を確認して貼ってください。●貼ったデカールは好きな位置に貼ってください。

① デカールが乾くまで手を触れないようにしてください。

① 使用するデカールをハサミまたはデザインナイフで台紙ごと切り取ります。

② 切り取ったデカールを水またはぬるま湯に約10秒程浮かべ、ピンセットで引き上げます。

③ デカールを台紙からはがし、位置を調整しながら貼り付けます。

④ 貼り付けたデカールの上から綿棒をやさしく押しあて、残っている水分を押し出します。デカール部分が完全に乾けば完成です。

●ざらざらした凹凸面、水を吸い込む物(ざらざらした塗装していない木製品等)には貼ることができませんのでご注意ください。●もし剥がしてはがしたい場合は水をたっぷり含ませたタオル等を10分程あてて、軽くこすってください。

※PVC製パーツ材質上、塗料を塗る際の塗料は乾かす必要はありません。  
※ラッカー系塗料(自乾系アクリル塗料、珪素塗料)と水性塗料(水溶性アクリル塗料)は併用できませんのでご注意ください。  
※水転写デカールは、お好きな位置に貼ってください。※水転写デカールの貼り方は「水転写デカールの貼り方」をご参照ください。



1/72 SCALE  
FULL ACTION  
PLASTIC MODEL KIT  
RZ-002  
**GUYSACK**



HERD

HERD

■ ZOID-CORE